

等による芸術作品や収蔵品の展示会などを開催するとともに、文化財の保護・保存と地域の歴史文化の継承・普及を推進してまいります。

スポーツ・レクリエーションにつきましては、スキー場第2リフトの整備を行うほか、改修工事によりご不便をおかけしているスポーツセンターにつきましては、本年5月には、トイレ改修・バリアフリー化等を完了し、安全でさらに使いやすい施設としてオープンいたします。

また、全日本ハンドボールチームと正月の箱根駅伝への出場を目指す大学陸上部など、スポーツ合宿の誘致に取り組み、一流のアス

リートに触れる機会を通じて、市民へのスポーツの普及と振興を図ってまいります。



▲全日本ハンドボールチーム合宿

オホーツクの個性を活かして交流のまちづくり

従来から進めてきたオホーツクの海洋研究に加え、環境負荷の低減や地球温暖化に主眼を置いた研究を推進するほか、国際化に対応した人材づくり・環境づくりに努めてまいります。

また、空港等の交通基盤や情報通信基盤を活用し、多様な地域と活発な交流・連携を推進するなど、地理的特性を生かした魅力ある交流が展開されるまちづくりに取り組んでまいります。

オホーツクプログラムにつきましては、昨年10月、北海道大学で

開催された日本プランクトン学会において、水産総合研究センターとの共同研究成果として、オホーツク中部沿岸域におけるプランクトン長期観測データの発表を行い、学会関係者から高い評価を得たところであります。

今後とも、外部研究機関とのネットワーク化を図るとともに、北方圏国際シンポジウムなどを通じて、研究成果の公表を行いながら、地場産業の振興や環境保全に貢献できる情報発信基地として、機能の充実に努めてまいります。

国際交流につきましては、中学生親善訪問団のニューポート市派遣のほか、コルサコフ市からのヨット訪問団受入れなどを通じて市民交流を促進し、国際交流の進展に努めてまいります。

北方圏国際シンポジウムにつきましては、これまで多くの市民ボランティアの皆さんの熱意に支えられ、本年2月に記念すべき25周年を迎えることができました。

オホーツクの豊かで個性的な生活・文化の創造を目指す息の長い活動は、環境と共生する社会づくりの貴重な取組として評価されるところであり、引き続き支援してまいります。



▲北方圏国際シンポジウム開会式

地域間交流・定住・二地域居住につきましては、「交流拡大プロジェクト」として、定年退職後の世代などへの「お試し暮らし」を引き続き実施するほか、都市部の児童・生徒との交流活動、スポーツ合宿誘致など、多様な分野・地域

との交流機会の確保に努めながら、交流人口の拡大による地域活性化や賑わいの創出へと繋げていくため、引き続き交流拡大の取組を推進してまいります。

空港の利用促進につきましては、全日空をはじめ、旅行会社などとタイアップした旅行商品の開発やPR活動をさらに力強く展開するとともに、東京直行便就航10周年記念事業として、子どもフライト体験ツアーを実施するなど、東京直行便の路線維持・確保に向けて、単年度搭乗率60%確保を目指し、搭乗率の向上に取り組みでまいります。

港湾整備につきましては、紋別港が地域経済圏における生活・産業を支える物流拠点港であることを踏まえ、本港地区の北防波堤改良工事、第2船溜西岸壁の海水交換施設の整備に引き続き取り組むとともに、第1船溜地区道路を整備してまいります。

道路整備につきましては、高規格幹線道路旭川・紋別自動車道が本年3月末に比布ジャンクションから浮島インターチェンジを含む丸瀬布インターチェンジまでの区間が供用開始となり、道央自動車道と連結することにより、旭川圏札幌圏へのアクセスがさらに短縮されるほか、高速道路の一部無料化の波及効果も期待されるところであり、引き続き、整備未着手となっている遠軽紋別間の早期着手に向け、国に対して、強く要請してまいります。

また、紋別湧別間の防雪事業に



▲市内循環バス

つきましては、昨年紋別側からの工事が着手されたところであり、昨日、一日も早い完成に向けて、引き続き要請してまいります。

このほか、道道紋別丸瀬布線の金八トンネルが昨年7月に供用開始されましたが、沿線には、国の登録有形文化財の指定を受けた旧上藻別駅通所もあり、交通量の増加が見込まれることから、安全で円滑な交通確保に向け、曲線部、幅員狭隘部の改良など、整備促進を北海道に要請してまいります。

バス輸送の充実につきましては、地域に密着した身近で便利な市民の足としてのバス路線の確保に向けて、市内循環バス実証運行を継続し、利用者の声に応えた路線網や運行ダイヤの検討などに引き続き取り組み、一日も早い本格運行を目指してまいりますとともに、バスターミナル設備の改修を行い、バス待合環境の改善に努めてまいります。

また、冬期観光の活性化に向け、昨年に引き続き、ガリヤ地区、空港、大江山頂、流氷岬などを結ぶ交通体制の整備に取り組んでまいります。

情報・通信につきましては、地上デジタル放送のスムーズな移行ができるよう、今後も市民周知に努めるとともに、受信が不可能な地域は、国による新たな難視地区

住民ニーズの多様化や地方分権に対応していくため、効果的・効率的な自治体運営と周辺地域との連携による広域的な行政サービスの展開に努めてまいります。

また、市民と行政が協働で進めるまちづくりを実践するため、町内会などのコミュニティが自主的に行う活動を支援するとともに、市民・事業者・行政が有機的に協働するまちづくりに取り組んでまいります。

市民が行動、夢をかなげよう

として指定を受け、必要な対策を講じてまいります。

また、情報化社会の進展に対応できるような地域情報の発信手法や通信技術等の利活用について研究するとともに、市民サービスの向上を図るため、平成23年度稼働に向けて、戸籍電算システムの導入に着手いたします。

長への手紙や市長室開放、出前市長室をはじめ各種懇談会への出席など、市民の皆さんとの直接対話を通して、情報や価値観の共有を図り、市民本位の市政、市民と行政が協働するまちづくりの実現に努めてまいります。

男女共同参画につきましては、広報誌などの活用や人権擁護委員会との連携協力を通じて、意識の啓発に努めるほか、引き続き各種審議会等への女性枠の拡大に取り組んでまいります。

行財政運営につきましては、多様化、高度化する行政需要に対応するため行政改革を継続し、効果的効率的な自治体経営に努めてまいります。

また、本年度から、金融機関との連携による口座振替収納の促進および嘱託徴収員を新規配置するほか、コンビニエンスストア収納

クレジットカード収納の平成23年度開始に向け作業を進めるなど、市税等の収納率向上対策に取り組んでまいります。

安養園につきましては、引継計画に基づき、受託事業者との十分な協議を行い、本年4月1日から民間に移管してまいります。

また、学校給食調理場の統廃合と委託化につきましては、引き続き職員組合との話し合いを重ね、合意形成が整うよう教育委員会とともに進めてまいります。

職員研修につきましては、市役所の組織能力が市民のために最大限に発揮されていることが必要ことから、研修内容の充実や現場主義の徹底、地域コミュニティ活動への参加、一職員一チャレンジなど、職員の市民支援能力の向上と日々の意識改革による行動する職員を育成するとともに、時代の変化に柔軟に対応できる市役所づくりを目指してまいります。

広域行政につきましては、医療やごみ処理をはじめ、観光・交通網など、広域的な取組が地域全体にとつて有益となるものについては、積極的に関係市町村との協議を行ってまいります。

現在、国において、地域主権の推進に伴う権限移譲や事務の共同処理の見直しが進められる一方、北海道においても、独自の「定住自立圏構想」が浮上していることから、これら国等の制度設計に十分留意し、多様な広域連携の取組手法について、検討してまいります。

また、本年度から、金融機関との連携による口座振替収納の促進および嘱託徴収員を新規配置するほか、コンビニエンスストア収納

クレジットカード収納の平成23年度開始に向け作業を進めるなど、市税等の収納率向上対策に取り組んでまいります。

安養園につきましては、引継計画に基づき、受託事業者との十分な協議を行い、本年4月1日から民間に移管してまいります。

また、学校給食調理場の統廃合と委託化につきましては、引き続き職員組合との話し合いを重ね、合意形成が整うよう教育委員会とともに進めてまいります。

職員研修につきましては、市役所の組織能力が市民のために最大限に発揮されていることが必要ことから、研修内容の充実や現場主義の徹底、地域コミュニティ活動への参加、一職員一チャレンジなど、職員の市民支援能力の向上と日々の意識改革による行動する職員を育成するとともに、時代の変化に柔軟に対応できる市役所づくりを目指してまいります。

広域行政につきましては、医療やごみ処理をはじめ、観光・交通網など、広域的な取組が地域全体にとつて有益となるものについては、積極的に関係市町村との協議を行ってまいります。